

南京の第二歴史檔案館が所蔵する中国海関の英語刊行物(一部中国語)を収録 Chinese Maritime Customs Service Publications

近代中国海関小史

1850年代の中国では太平天国の乱や宗教結社や不法集団の活動により社会が不安定化、貿易の脱税や密輸が横行、清朝による関税徴税業務は破綻を来していました。この状況の中、アヘン戦争後の南京条約以来始められた条約港を通じた貿易活動の停滞を恐れたイギリスは、独自に関税業務を実施することが急務であると考え、清朝の伝統的な徴税機関である海関において清朝官吏に代わり業務を代行、ここに外国人税務司制度が創設されます(1854年)。当初上海に設置された外国人税務司を他の条約港にも設置することが論議される中で、1859年、各条約港の海関を統括し、雇用外国人の人事を司る総税務司が創設され、ホレイショ・レイが就任、外国人税務司制度は広州、汕頭など他の条約港に拡大します。こうして清朝の伝統的な関税徴収機関である海関は、組織的には中国の行政機関としての体裁を取りつつも、外国人が中心となって運営する機関として生まれ変わりました。就任4年後に解任されたレイの後に総税務司に着任したのがロバート・ハート。卓越した行政能力を備え、人事権の掌握を背景に強大な権限をもち、半世紀近くに亘り海関行政に君臨し、「最も影響力のある外国人」と言われたハートの時代に、海関組織は最盛期を迎えます。当初は上海欽差大臣の下に置かれた総税務司は、ハートの時代に清朝の外交、関税、郵政等を管轄する総理衙門直属のポジションになり、海関本部も上海から北京に移動しました。本部が北京に移動したことにより、総理衙門高官との人脈が深まる中で、ハートや海関幹部は清朝役人の顧問として、様々な助言を行ないました。海関の活動領域も関税管理を超えて、灯台の設置・運営、密輸取締、河川・港湾・鉄道の治安活動、郵便事業の運営から、貿易統計や船舶向け航海案内や気象、公衆衛生に関する報告の刊行、教育機関の運営、さらには中国の外交活動への関与、対外使節団派遣への資金供与、万国博覧会への出展指導まで、近代化を推進する清朝政府の諮問機関として清朝の財政、外交に多大な影響を及ぼしました。

南京の第二歴史檔案館が所蔵する近代中国貿易史の第一級の資料

外国人税務司制度の創設以来、海関は英文出版物を編纂・刊行しました。本コレクションは、南京の第二歴史檔案館が所蔵する海関による出版物を電子化して搭載します。収録出版物は広範囲に及びますが、貿易統計が大半を占めます。言語は大半が英語ですが、中国語版も一部収録されています。19世紀半ばから20世紀半ばまでの100年間に亘る近代中国貿易史の第一級の資料です。





収録資料

- ◆ 『最近十年各埠海關報告』(1882-1891、1892-1901、1902-1911、1912-1921、1922-1931)
- ◆ 『最近十年各埠海關報告』(中国語版)(1922-1931)
- ◆ 『貿易統計と貿易報告』(1887-1919)
- ◆ 『貿易統計と貿易報告』(中国語版)(1887-1912)
- ◆ 『中国条約港貿易統計』(1867-1876)
- ◆ 『条約港貿易統計』(1879-1881)
- ◆ 『条約港貿易統計と貿易報告』(1882-1886)
- ◆ 『条約港貿易統計と貿易報告』(中国語版)(1882、1884-1885)
- ◆ 『条約港貿易統計』(1877-1878)
- ◆ 『中国対外貿易』(1920-1931)
- ◆ 『中国対外貿易』(中国語版)(1930-1931)
- ◆ 『中国貿易』(1932-1943、1946-1948)
- ◆ 『中国貿易』(中国語版)(1932-1943、1946)
- ◆ 『中国貿易概観』(1935-1940)
- ◆ 『中国貿易概観』(中国語版)(1935-1940)
- ◆ 『広東港輸出入貿易統計』(1859年10月24日から12月31日まで)
- ◆ 『広東港輸出入貿易統計』(1860年下半期)
- ◆ 『広東港輸出入貿易統計』(1861)
- ◆ 『広東港貿易統計』(1864-1866)
- ◆ 『芝罘港輸出入貿易統計』(1863)
- ◆ 『芝罘港貿易統計』(1864-1866)
- ◆ 『福州港輸出入貿易統計』(1861年7月14日から12月31日まで)
- ◆ 『福州港輸出入貿易統計』(1862)
- ◆ 『福州港貿易統計』(1865-1866)
- ◆ 『寧波港輸出入貿易統計』(1861年5月22日から9月9日まで)
- ◆ 『寧波港輸出入貿易統計』(1862年7月4日から12月31日まで)
- ◆ 『寧波港輸出入貿易統計』(1863)
- ◆ 『寧波港貿易統計』(1864-1866)
- ◆ 『汕頭港輸出入貿易統計』(1861、1863)
- ◆ 『汕頭港貿易統計』(1862、1864-1866)
- ◆ 『天津港輸出入貿易統計』(1861年5月1日から12月31日まで)
- ◆ 『天津港輸出入貿易統計』(1863)
- ◆ 『天津港貿易統計』(1864、1866)
- ◆ 『廈門港輸出入貿易統計』(1862年3月31日から12月31日まで)
- ◆ 『廈門港輸出入貿易統計』(1863)
- ◆ 『廈門港貿易統計』(1864、1866)
- ◆ 『九江港輸出入貿易統計』(1863)
- ◆ 『九江港貿易統計』(1864、1866)
- ◆ 『上海港輸出入貿易統計』(1859)
- ◆ 『上海港輸出入貿易統計』(1860年上半期)
- ◆ 『上海港、長江、北部開港間輸出入貿易統計』(1861)

- ◆『上海港貿易統計』(1864-1866)
- ◆『鎮江港貿易統計』(1864-1866)
- ◆『漢口港貿易統計』(1864、1866)
- ◆『營口港貿易統計』(1864、1866)
- ◆『台湾淡水港貿易統計』(1865)
- ◆『台湾淡水港、基隆港貿易統計』(1866)
- ◆『台湾打狗港貿易統計』(1863年10月26日から1864年12月31日まで)
- ◆『台湾打狗港・台湾府貿易統計』(1865,1866)
- ◆『満州国外国貿易統計年報』(1934年1-12月、1938年1月,4-8月,10-11月、1939年1月,7-12月、1940年1-7月,9月)
- ◆『光緒三十三年(1907年)の帝国郵便局機構に関する報告』
- ◆『光緒三十三年(1907年)の帝国郵便機構に関する報告』(中国語版)
- ◆『光緒三十四年(1908年)の帝国郵便機構に関する報告』
- ◆『光緒三十四年(1908年)の帝国郵便機構に関する報告』(中国語版)
- ◆『宣統一年(1909年)の帝国郵便機構に関する報告』
- ◆『宣統一年(1909年)の帝国郵便機構に関する報告』(中国語版)
- ◆『宣統二年(1910年)の帝国郵便機構に関する報告』
- ◆『宣統二年(1910年)の帝国郵便機構に関する報告』(中国語版)

◆データベースの概要

- ◆ 原資料所蔵機関: The Second Historical Archives of China(第二歴史檔案館、南京)
- ◆ 期間: 1859年-1950年
- ◆ 総ページ数: 約10万ページ
- ◆ すべてのコンテンツと機能をお試しいただける1ヶ月の無料トライアルをご提供しております。
- ◆ 商品に関するお問い合わせは、センゲージラーニング株式会社、または販売代理店(株式会社極東書店)までお願いします。
- ◆ ホスティング料金はかかりません。

☞併せてご検討下さい。

南京の第二歴史檔案館所蔵の中国海関文書を電子化

China and the Modern World: Records of the Maritime Customs Service of China 1854-1949

総稅務司通令、ロンドン事務所文書から、条約港からの准公式書簡、貿易取締関係文書、日中戦争とその後の国共内戦期関係文書まで、南京の第二歴史檔案館所蔵の中国海関文書を電子化、近代中国海関史研究の新時代を切り開く画期的電子リソース。

中国海関公報 1869年-1913年

Chinese Maritime Customs Service: The Customs' Gazette, 1869-1913 (Archives Unbound)

中国海関総稅務司の命令で発行された海関公報を収録。海関公報は上海の総稅務司により発行された季刊貿易統計で、牛莊、天津、芝罘、漢口、鎮江、寧波、福州、廈門、汕頭、淡水、九江、広東など、中国各地の条約港に設置された海関徵稅所から提出された報告書を基に作成された。輸出入、船舶、関稅收入等に関する統計と解題を収録するだけでなく、中国各地の社会經濟状態、関稅や貿易の取締、罰金、密輸品の没収、条約港の状態などに関する情報をも提供する。1869年から1913年まで180



号発行された中から、本コレクションでは 150 号を収録する。第 29 号から第 36 号(1876-1877)、第 45 号(1880)と第 46 号(1880)、第 49 号から第 56 号(1881-1882)、第 61 号から第 64 号(1884)、第 77 号から第 84 号(1888-1889)は欠号で収録されていない。